

平成30年度

第1回 指定管理者選定評価委員会

平成30年8月1日

千葉市教育委員会

## 平成30年度第1回千葉市教育委員会指定管理者選定評価委員会議事録

### 1 日時：

平成30年8月1日（水） 18時00分～20時10分

### 2 場所：

千葉市教育委員会事務局 教育委員会室

（千葉市中央区問屋町1-35 千葉ポートサイドタワー12階）

### 3 出席者：

#### （1）委員

近藤葉子委員（会長）、中原秀登委員（副会長）、岡村健司委員、中野智輔委員

#### （2）事務局

##### ア 生涯学習部

潮見部長

##### イ 総務課

國方課長、高桑総務班主査、今井主査補、鈴木主事

##### ウ 生涯学習振興課

山田課長、山口統括管理主事、田島課長補佐、野中主査、柴崎主査、

大野管理主事、上原主任主事、木崎主任主事

### 4 議題：

#### （1）会長及び副会長の選任について

#### （2）指定管理者の施設管理に係る年度評価について

##### ア 千葉市生涯学習センターについて

##### イ 千葉市科学館について

### 5 議事の概要：

#### （1）会長及び副会長の選任について

千葉市公の施設に係る指定管理者の選定等に関する条例（平成22年千葉市条例第7

号) 第9条第2項の規定により、委員の互選により、近藤委員を会長に、中原委員を副会長に、それぞれ選任した。

(2) 指定管理者の施設管理に係る年度評価について

千葉市生涯学習センター及び千葉市科学館の指定管理者の施設管理に係る年度評価について、それぞれ事務局から説明があり、審議。後日、審議の内容を基に事務局が答申案をまとめ、各委員の意見を聴取した上で、会長の承認を経て本委員会の答申とすることとした。

6 会議経過：

○高桑総務課主査 委員の皆様におかれましては、お忙しい中お集まりいただきまして、ありがとうございます。

ただいまより平成30年度第1回千葉市教育委員会指定管理者選定評価委員会を開会いたします。

私は、本日司会を務めさせていただきます、教育委員会総務課総務班の高桑と申します。どうぞよろしく願いいたします。

なお、本日、宮野委員より欠席する旨のご連絡がありましたので、ご報告いたします。

本日は、委員の半数以上のご出席がございますので、会議は成立しております。

また、市の情報公開条例第25条に基づき、会議は公開となりますので、あわせてご報告させていただきます。

それでは、開会に当たりまして、教育総務部総務課長の國方からご挨拶を申し上げます。

○國方総務課長 教育総務部総務課の國方でございます。

本来であれば、教育総務部長が皆様にご挨拶をすべきところではございますが、別件でどうしても対応しなければならない事案がありまして、申しわけございませんが、本日は欠席とさせていただきます。

委員の皆様方には、本日は大変お忙しい中、千葉市教育委員会指定管理者選定評価委員会にご出席をいただき、まことにありがとうございます。

さて、本市では、指定管理者の選定過程の一層の公平性や透明性を図るため、平成22年3月に千葉市公の施設にかかわる指定管理者の選定等に関する条例を定め、財務や法務の専門家、学識経験者の皆様によって構成される当委員会を設置いたしました。

昨年度は、委員の皆様のご尽力により、当選定委員会において選定していただいた結果

に基づき、公民館の指定管理者を指定することができ、また、既存施設の施設管理について、適正な評価をしていただくとともに、有用なご意見、ご提案をいただきましたことに、心から感謝を申し上げます。

本日は、生涯学習センターと科学館の2施設について、指定管理者の行った施設管理にかかわる年度評価についてお願いするものであります。委員の皆様には、大変お手数をおかけいたしますが、今年度も豊富なご経験と高いご見識によりご審議をいただきますようお願い申し上げます。失礼いたしました。どうぞ、よろしく願いいたします。

○高桑総務課主査 続きまして、委員紹介に入らせていただきます。

本日は、平成30年3月末をもって退任された尾形雅之委員の後任といたしまして、平成30年4月1日からご就任いただきました中野智輔委員にご出席いただいておりますので、改めて委員の皆様にご紹介をさせていただきます。

それでは皆様、お手元の委員名簿をご覧ください。

名簿の順にご紹介させていただきます。

最初に公認会計士でいらっしゃいます岡村健司委員でございます。

○岡村委員 よろしく願いします。

○高桑総務課主査 次に、元社会教育委員の近藤葉子委員でございます。

○近藤委員 よろしく願いいたします。

○高桑総務課主査 次に、4月にご就任いただきました、弁護士でいらっしゃいます中野智輔委員でございます。

○中野委員 よろしく願いいたします。

○高桑総務課主査 次に、千葉大学法政経学部教授でいらっしゃいます中原秀登委員でございます。

○中原委員 中原です。よろしく願いします。

○高桑総務課主査 よろしく願いします。

最後に、放送大学特任教授、千葉学習センター長でいらっしゃいます宮野モモ子委員ですが、先ほど報告しましたとおり、本日は欠席でございます。

○高桑総務課主査 それでは、会議を開催させていただきます。

なお、会長が決定するまでの間、総務課長が仮議長を務めさせていただきたいと存じますが、よろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○高桑総務課主査 それでは、國方総務課長、議事進行をお願いいたします。

○仮議長 それでは、皆様からご承認いただきましたので、仮議長として、会議の進行を務めさせていただきます。

それでは、議題に入らせていただきます。

議題（１）「会長及び副会長の選任」を行いたいと思います。

会長の役割といたしましては、本委員会の議長を務めていただくほか、会議の招集等、会を代表していただきます。

副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理していただく役割でございます。

なお、会長及び副会長の役割の任期は、各年度末までとされております。

資料１、千葉市公の施設に係る指定管理者の選定等に関する条例の３ページ、第９条第２項をご覧ください。

会長及び副会長につきましては、委員の皆様の互選により選出することとなっておりますが、どなたか立候補、または推薦等される方はいらっしゃいますか。

○岡村委員 よろしいでしょうか。

会長は、昨年も会長でいらした近藤委員に引き続きお願いしてはいかがでしょうか。

また、副会長は、会長が推薦することとしてはいかがでしょうか。

○仮議長 ただいま、会長には近藤委員を、副会長は会長が推薦するのご意見をいただきましたが、いかがでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○仮議長 委員の皆様からご賛同いただきましたが、近藤委員さん、よろしいでしょうか。

○近藤委員 はい。今年もよろしくをお願いいたします。

○仮議長 ありがとうございます。それでは、会長につきましては、近藤委員に決定させていただきます。よろしくをお願いいたします。

続きまして、副会長を近藤会長から推薦いただきます。近藤会長、お願いいたします。

○近藤会長 それでは、推薦させていただきます。

副会長には、昨年も副会長でいらした中原委員に引き続きお願いしてはと思いますが、いかがでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○仮議長 中原委員、よろしいでしょうか。

○中原委員 私によければしっかりやりますので。

○仮議長 ありがとうございます。

それでは、副会長は、中原委員に決定させていただきます。

○仮議長 それではここで、会長、副会長が選出されましたので、今年度ご審議いただく案件等について、会長へ諮問させていただきます。

諮問書になります。よろしく願いいたします。

(諮問書手交)

○仮議長 それでは、これまで仮議長を務めさせていただきましたが、ここで議長を近藤会長と交代したいと存じます。

近藤会長、よろしく願いいたします。

○近藤会長 それでは、次の議事に入ります前に、本日のこの後の流れについて、事務局からご説明をお願いいたします。

○國方総務課長 議事の流れについて、ご説明いたします。

本日は、会議次第、議事内容の議題でございますとおり、「千葉県生涯学習センター」及び「千葉県科学館」の年度評価をお願いいたします。

年度評価は、今後の管理運営をより適正に行うため、各年度の終了後、市が履行を確認し、それを選定評価委員会に報告するとともに、意見を聴取するものであります。

初めに、議題（２）ア、千葉県生涯学習センターの年度評価についてですが、まず、施設の所管課である生涯学習振興課から、施設の評価にかかわる資料について説明をいたします。

次に、委員の皆様から、質疑応答とともに管理運営状況や財務状況の確認、サービス向上や業務効率化の方策などのご意見等を伺いたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

同様の流れにより、議題（２）イ、千葉県科学館についても所管課である生涯学習振興課からの説明の後に、ご意見等をお願いしたいと考えております。

最終的に、いただいたご意見を取りまとめたものを、選定評価委員会として教育委員会に対し答申としていただくこととなります。

以上でございます。

○近藤会長 それでは、次第に従いまして、議事を進行してまいります。

議題（２）「指定管理者施設管理に係る年度評価について」のア「千葉市生涯学習センターについて」に関し、事務局から説明をお願いいたします。お願いします。

○潮見生涯学習部長 生涯学習部の潮見です。よろしくお願いします。

まず、１、「公の施設の基本情報」についてですが、施設名称は千葉市生涯学習センター、条例上の設置目的、ビジョン、ミッション、制度導入により見込まれる効果については、記載のとおりでございます。

成果指標、数値目標は、各番号が対応しております、まず成果指標の①「市民生活や地域社会の課題を『学ぶ』機会を提供する」は、数値目標として、延べ受講者数 3万5,000人を設定しております。

成果指標の②「学習成果が『生きる』地域づくりを進める」の数値目標は、ボランティア活動をしたい人と求めている人を結びつけるボランティアコーディネート件数、260件と設定しております。

成果指標の③「学びを『支える』環境づくりを進める」の数値目標は、施設利用率 55%を設定しており、この施設利用率の考え方は、具体的には、1日のうち使用時間区分が4区分ある部屋で、1区分の利用があった場合は25%というような判定をしております。

次に、２、「指定管理者の基本情報」ですが、指定管理者名は公益財団法人千葉市教育振興財団、指定期間は平成28年4月1日から平成33年3月31日までの5年間となっております。選定方法は非公募であり、その理由につきましては記載のとおりでございます。管理運営費の財源につきましては、指定管理料及び利用料金収入でございます。

３、「管理運営の成果・実績」の成果指標に係る数値目標の達成状況についてですが、1つ目の成果指標、「市民生活や地域社会の課題を『学ぶ』機会を提供する」は、講座やイベント等の実施回数の増加により、平成29年度は延べ3万5,314人が受講し、達成率は100.9%となっております。

2つ目の成果指標、「学習成果が『生きる』地域づくりを進める」は、ボランティアコーディネート件数が昨年度を10件下回る221件にとどまっており、達成率は85.0%となっております。

3つ目の成果指標、「学びを『支える』環境づくりを進める」は、施設利用料金の柔軟な設定や利用者アンケートの反映等により、施設利用率は62.84%となり、達成率は114.3%となっております。

4、「収支状況」の(1) 必須業務収支状況についてですが、それぞれ合計欄の実績をご覧ください。収入の実績は、5億9,476万5,000円で、計画と比較しますと21万円の増となっております。主な要因は施設利用者の増によるものです。

次に、支出の実績は、5億9,771万6,000円で、計画比317万円の増となっております。主な要因は、公民館への指定管理者制度導入に伴い、本社費・共通費が計画比約1,238万円の増となったことによるものです。

(2)の自主事業収支状況についてですが、収入の合計は120万8,000円で、前年度比188万円の減となっております。

自主事業収入が減少した主な要因は、生涯学習アカデミーちばの実施回数が年2期から年1期に減少したことによるものです。

また、支出は241万5,000円で、事務費の減により、前年度比約74万円の減となっております。主な要因は、自主事業の講座やイベント等の委託料の減によるものです。

(3)の収支状況についてですが、必須業務と自主事業合わせた収支は415万8,000円の赤字となっております。

次に、5、「管理運営状況評価」の(1) 管理運営による成果・実績(成果指標の目標達成状況)についてですが、施設利用率について、市設定の数値目標の105%以上を達成しておりますので、市の評価をBとしております。

(2)市の施設管理経費縮減への寄与についてですが、指定管理料支出が選定時の提案額から0.37%の削減でしたので、市の評価はCとなっております。

次に、(3)管理運営の履行状況についてですが、選定時の審査項目を評価項目として、指定管理者と市とがAからEの5段階でそれぞれ評価を行っております。市の評価については、平成29年度指定管理者モニタリングレポートに記載のプラス評価及び確認結果に基づき、各モニタリング項目の点数を算出します。その上で、平均値の算出として、評価項目ごとにモニタリング項目の点数の平均値を算出し、AからEの評価をしております。

評価のCが「おおむね管理運営の基準・事業計画書等に定める水準どおりに管理運営が行われていた」と評価するものであり、それを上回るBの評価をした箇所を中心にご説明いたします。

3、「施設の効用の発揮」の(1)「幅広い施設利用の確保」については、休館日を条例上では毎週月曜日としているものを、毎月第4月曜日のみを休館日としていること。



また、利用料金設定の柔軟な設定やF a c e b o o k等SNSの活用による施設の周知などにより、市民の施設利用につなげ、施設利用率が平成28年度から約4.6ポイント増加したことから、市の評価はBといたしました。

また、(2)の「利用者サービスの充実」につきましては、提案時にはなかった無線LANによるパソコンへのインターネット接続環境を整え、利用者の利便性を向上させていることや、利用者の意見聴取、自己モニタリングとして、もともとの管理運営の基準には示していない第三者評価を、有識者の評価を実施したことから、市の評価はBといたしました。

(4)「教育委員会指定管理者選定評価委員会意見を踏まえた対応」についてですが、「生涯学習センターのホームページを必要な情報を得られるように改善すること」との平成28年度意見への対応としまして、表示バナーの配置を見直すなどの改善をいたしました。「高齢者向けキャリア教育は幅広いキャリア教育となるよう工夫すること」とのご意見に対応しまして、平成29年度に労働局との連携講座として就労支援講座を実施いたしました。「アンケート結果に基づいて市民ニーズに沿った運営の改善を検討するとともに、データベース化し、傾向をとらえるよう工夫すること」とのご意見への対応として、アンケート結果を集計・分析することにより市民ニーズの把握に努め、利用者の満足度、利便性の向上を図りました。

次に、6、「利用者ニーズ・満足度等の把握」についてですが、まず、アの受講者アンケートでは、5,827件の回答があり、いずれの講座等においても「満足」と「やや満足」の合計が90%を超える高い満足度を示しております。

次に、イの貸出施設利用者を対象とした利用者アンケートにつきましては、8,513件の回答があり、95%を超える方が「とてもよい」、「よい」と高い評価をいただいております。主な意見としましては、「設備がきれいで、職員の対応が丁寧である」といった内容となっております。

次に、ウのインターネットアンケートにつきましては、18件の回答がありました。ホームページのデザインについては「満足」、「やや満足」の回答が16件でした。

「市・指定管理者に寄せられた主な意見・苦情と対応」についてですが、「利用する部屋が暑い、寒い」という意見に対しましては、全館一律の空調システムであり、天候等の条件によって冷房・暖房の両方が要求される時期には、日ごとや部屋ごとの切りかえができないため、扇風機やヒーターを貸し出すなど個別に対応をいたしました。

また、「利用する部屋及び施設がきれいでした」という意見が多かったことから、今後も快適な環境で利用いただけるよう清掃や設備の維持に努めてまいります。

「指定管理者による自己評価」につきましては、各種講座・事業を実施し、多種多様な生涯学習活動を推進したほか、施設の積極的なPRや設備改善により、施設利用率が前年度比4.6%増となったこと、利用者アンケートの高い評価などによりBとしております。

「市による評価」についてですが、総括評価B、評価項目20%以上がAまたはB、かつ評価項目にDまたはEがないのでBとしております。

評価内容ですが、市民の幅広い学習ニーズに対応した講座を実施したことや、施設設備の充実、利用方法の改善などにより、講座の延べ受講者数と施設利用率の成果指標の数値目標を2項目で達成したこと、その他、建築物・建築設備等の保守点検や修繕について適切に対応するとともに、自主事業も積極的に行われたことにより、優れた管理運営が行われたことを所見として記載しております。

以上です。よろしく申し上げます。

○近藤会長 それでは、まず指定管理者の倒産、撤退等のリスクを把握するという観点から、指定管理者の財務状況について、公認会計士でいらっしゃいます岡村委員のご意見をお聞きしたいと思いますので、岡村委員、よろしく願いいたします。

○岡村委員 はい、了解しました。

貸借対照表が載っております、これは一言で言うと財産目録です。

まず、公正妥当な会計基準に従ってつくられていること。

次に、監査報告書がございまして、限定意見などおかしなものはありません。適正である。という趣旨のことが書いてありますので、この財政状況に関する資料が適正であることを前提とします。2点ですね。

それでお話させていただきますと、ここに2期間の財政状態が載っており、ぱっと見る限り、特段おかしなところはないと思います。

正味財産の部がございまして、これはこの組織体の持ち分です。負債の部というのは、外部の持ち分。つまり返さなければだめなお金だということでございまして、この比率が、大体半々ぐらい、47.8%ですので、それほど自己資本は低くないということが言えます。正味財産の部の、拠出金以外の金額もきちんと残っておりますので、そういう意味では大丈夫ではないかということでございます。

資産のほうにも、固定資産の中に投資有価証券等々ございますけれども、きちんとした

ものであったと思います。

続きまして、正味財産増減計算書、1年間の成績表でございます。経常費用というのが、評価損益等調整前当期経常増減額がございまして、これは、今期は1,900万円の赤字になったと。前年度1,900万円の黒字でしたので、3,900万円程度悪化したと。数字を見る限り言えます。

ですけれども、この数字がどういう意味を持つかということもございますけれども、先ほどの自己資本の金額、3億6,000万円と比較すると微々たるものであらうと思いますので、きちんとやってらっしゃると思います。

ということがございますので、ここに関しましては、この決算書等、きちんと正規の会計基準に従ってつくられて、監査を受けたということを前提にすれば、注記を含めても、おかしなところはないと思われま。

○近藤会長 ただいまの岡村委員のお話について、ほかの委員の皆様から何かご質問などはございますか。

ご質問はないということなので、続きまして、先ほどの事務局からの説明内容への質問や、指定管理者の施設管理運営のサービス水準向上、業務効率化の方策、改善を要する点などについて、ご意見をお聞きしたいと思います。

委員の皆様から何かご質問、ご意見はございますか。

お願いします。

○中原委員 評価の表示の仕方で、管理運営の履行状況の、自己評価と市の評価があり、最後の総括のところにもまたA、B、C、D、Eの評価基準があります。

ただし、これら自己評価を見ると、C評価が結構多いですね。Bが1つしかない。だけれども、総括になってくると、突然Bになる。それは、それぞれの項目の評価ではそうなのでしょうが、なぜ総括でBに変わったのか、誤解を招きやすい状態じゃないのかということ。それが1点です。

それと、あともう1点でございますが、これは意見ですが、確かに、数値目標というのは、基本的には前年度をある程度参考にした達成率という感じがします。これはもう本当に難しいのですが、絶えず右肩上がり、あるいは100%達成というのを基本とするのは不可能ですから、毎年毎年積み重ねていって、右肩上がりというのが理想なのでしょう。しかし、現実的には厳しい。そうしたら、いずれ絶えず現状維持となり、Cの評価になるのではないのでしょうか。

だから、その辺のところ、もちろんAはいいに決まっていますのですけれども、我々としては、もうCでも十分ですよというのか。その辺のところをどうすればいいのかなというのがちょっとわからない。何度も言うようにAはいいに決まっています。Bまではいいのかもしれない。Cはもう現状維持ぐらいだったら大したことはないのではないのかとか、その辺がちょっと疑問にあるということです。

2点です。

○近藤会長 お願いします。

○潮見生涯学習部長 総括がBになっているではないかということですけれども、まずは管理運営、市民が利用する施設で、適切に管理をするというのは、これは当たり前ですけども、その水準を満たしていれば、基本的にCだと。さらに、成果指標を掲げて、数値目標を設定しているわけですね。それが非常にうまくいったというようなことも含めて、さまざまな努力をして増やしてきている。もともと市が「ここまでやってください。」というところを上回ってやったということが、Bという総括的な評価になっているということですね。

○中原委員 説明はもちろんわかります。ただ、一般の方がこの数字だけを見ると、Cが多いのに、最後の総括でBに変わっていますから、何でなのかと。だから、何度も言うように、表記の問題なのです。これ見たとき、皆さんが納得するのかなということです。

したがって、何かもう少しいい表記の仕方があれば、誰しも納得するようなものがあればということです。

○潮見生涯学習部長 前半のほうの市の評価が、後ろにありましたように、機械的に平均値ではじかれてくるということで、どうしてもそうなってしまいます。もちろんCで十分です。Aをもちろん目指していただく分にはいいのですけれども、そんなに無理しなくても、Cでも十分。Bがつけば、かなりいいという状態であることは、まずあります。確かに、何で最後はBなんだと。CよりB。Bがちょっとでもあれば。

○中原委員 そういうことになれば、またそれはそれなりにわかります。

あと1点、もちろんA、B、Cで、CよりもBがいい、いや、Cでいいということであれば、もう現状満足でいいのだったら、それはそれで問題がありますが。

だから、もう少し頑張ってもらって、Bがないとだめだよとか。我々としてはどう考えるのかなというのが、大きな課題ということです。

○近藤会長 ありがとうございました。

○岡村委員 先ほど成果指標の件をお話いただきました。この85.0%、これはどう判断なさっているのですか。

○近藤会長 85%。

○岡村委員 ええ。これ評価に反映されていますか。要するに、大変重要だから成果指標を設けたわけでございまして。

○山田生涯学習振興課長 よろしいでしょうか。

○岡村委員 はい、どうぞ。

○山田生涯学習振興課長 ボランティアのコーディネート件数ということで、目標値には達成されていないという状況で85%でございます。

これについては、今後、ボランティアのコーディネートをする機会等を増やしていきながら、目標を達成できるように努めていきたいというところでございます。

○岡村委員 ごめんなさい。まず、目標値にいかなかった理由は何ですか。人が今逼迫しているからとか、いろいろあると思うのですけれど、そこを、どうモニタリングされてきたかということを知りたいのです。

○田島生涯学習振興課課長補佐 コーディネートの件数に関しては、当然努力はしているところではあります。ただ、この中で、今年度は新しいボランティアの個人とお願いする側の施設の掘り起こしが少しくまらなかつたということがあるというのと、あと、一旦掘り起こしてしまった後、これは構造的な問題にはなるのですけれども、掘り起こしてしまった後に、例えば、同じ方にボランティアをお願いするということに、センターを通さなくて、今度はお願いしてしまうということは当然あり得るわけで、その中で数字が伸びないというところはあると聞いております。

○岡村委員 ある程度やむを得ないところがあるということで、今後どうされるかということですね。これ、目標値にいきますかね。言い方はよくないですけれども。これ、やってくれって言っていますよね。だから、やっていただきたいのですけれども。

○山田生涯学習振興課長 そうですね。目標値自体は、指定管理者がみずから設定した目標値ですし、そこは目標値を達成するように、当然その努力はしていただくことになると思います。

○岡村委員 そういったら、またいかないかもしれないですね。

○潮見生涯学習部長 一応、指定管理者は、最終的に平成32年度には260ぐらいにはしたい。

○岡村委員 32年度からということ。年度でやらなかったのですか。

○潮見生涯学習部長 いや、一応徐々に増やしていきたいという。その背景としては、数値で言いますと、平成25年度は162件、26年度が198件、27年度が228件、28年度231件と。順調に増やしてはきていた。たまたま29年度がちょっと減ってしまったという、そういう状況もあります。

○岡村委員 この目標、一番最後の年の目標ですか、推進目標は。

○潮見生涯学習部長 はい、平成32年度に260という設定をしています。

○岡村委員 ああ、そういうことですか。そういうふうに言ってくれば、大分、納得しますけどね。前年より下がったけれども、やむを得ない理由があつてということで、今後またこれに向かってやっていくということですね。

○潮見生涯学習部長 市の評価が85%ですけどCになっています。Cは85%以上105%未満となっていて、若干下回りはしたものの、市評価にぎりぎり入っているということです。

○岡村委員 85ってCに入れるんですか、本当に、これ。86点ね。86点。ちょっといやらしいですけども。

○田島生涯学習振興課課長補佐 85、ジャストです。

○岡村委員 わかりました。引き続き努力して、モニタリングしてやっていただきたいと。

あと、収支状況ございますね。これは、収支415万円赤字になったということで、もう一回理由をお聞きしたいのですけれども。

○潮見生涯学習部長 本社費・共通費が、計画上3,646万円だったのが、4,800万円かかったのですね。これは、公民館の指定管理を今年度から導入しましたけれども、その準備経費が、人件費等も含めて、相当かさんだということで、ここにそれが計上されているということですね。この事業とは、直接つかないですけども、本社費の分配をする関係上、ここにかさんだ形が入ってきたという。

○岡村委員 前回の指定管理のときにもお伺いしたのですけれども、ほかの事業の、例えば非効率とかそういうもの、ここをかぶる必要があるのかということ。こちらの指定管理でというのはおかしいですよ。違いますか。

○潮見生涯学習部長 厳密に分けられれば、もちろんいいのでしょうけれども。

○岡村委員 だって今、ごめんなさい、公民館の準備ですよ。それがなぜかぶるのですか。公民館でしょう。

○潮見生涯学習部長 例えば公民館の指定管理を受けるのに、47館もありますから、相当な人の手配だとか、準備行為がかかるのです。それが、本社費として出てくるのですけれども、本社費を事業費で案分していく関係で。

○岡村委員 そこがわからないのですよ。

○潮見生涯学習部長 1人の人件費を、これは公民館の仕事をしているからこっちだというような、恣意的にはなかなか難しいということ。

○岡村委員 恣意的、それが正しいのではないのですか。違いますか。部門別の計算をやりますけれども、そこですよ。数字ってひとり歩きするので、共通費がたまたまこっちにかかりましたというので、こっちに支払いました、というのはまだかわいいのだけれども、その固定費みたいなものを単純に数値で割って、こっちでこの収支は赤字ですよと言われると、会計数字は意思決定に使われるのですね、利害関係者の。私たちも意思決定に使いますよね、これ。それはちょっと、なぜほかの、使えない数字だって。

○潮見生涯学習部長 それは、公益財団法人になったということで、会計基準で、そうせざるを得ないのだと思っています。

○岡村委員 それは、この組織としての会計基準であって、この事業としての会計基準ではないです。

○潮見生涯学習部長 そうですね。そうですけれども、経理をやる上で共通費は事業費に案分するというのが、ルールとしてあります。

○岡村委員 何のルールですか。

○潮見生涯学習部長 公益法人の会計のルールとして。

○岡村委員 それは、要するに私たちが、この事業を管理会計として、ここ見るための会計じゃないんですよ。制度改革とか、そういう話です。それを私たちが見ていて、こういう数字出てくると、ちょっと待ってくださいとなる。

○潮見生涯学習部長 そうですね。おっしゃることはわかります。そのとおりだと思いますけれども。

○岡村委員 だから、我々の見方としては、ちゃんとやったのだと、この事業は。違いますか。ほかでお金がかかったからこういう数字になったけれども、実はそういう理由だったので、これは決して赤字じゃありませんというのが答えですよ。

○潮見生涯学習部長 そうです。

○岡村委員 そう言ってほしいですよ。僕も思ってないですけども、一応この数字

出てくるのですよ。矛盾したのではないかと思ってしまうから。

○潮見生涯学習部長 それは理由が、おかしい理由になっていますね。現に。

○近藤会長 そうですね。

○岡村委員 ですよ。ちゃんとやったと、無駄していないということですね。

○潮見生涯学習部長 そうですね。そこは、要は本来の会計の処理と違う数字をここに出すということを、財団の人もしにくいということだと思います。そういう影響があって、たまたま切り出したときにも、これがでてきた。

○岡村委員 説明を書きしておくといいですよ、それはね。すみません。ちょっと、やっぱり数字、目がっちゃうものですから。

○近藤会長 わかります。

○岡村委員 困りますよね。

○中原委員 でも、市民はこれしか見ませんからね。

○岡村委員 そうそう。

○中原委員 後で理由を聞けば、ああそういうことなのかと分かりますが、それはなかなか僕らにはわかりません。

○潮見生涯学習部長 先ほどの損益計算書でも、やはり赤が出ているというのは、そういう影響があるのですね。

○岡村委員 しばらくはしようがないかもしれませんね。初めはね。大したことではないと思っていますけれども。

あといくつか教えてほしいのですが、評価した、私たちの意見ございましたよね。指定管理者選定委員会に対しての回答を確認したいのですが、28年度、ホームページの件について、表示バナーの配置を見直ただけですか、やったのは。配置を見直ただけということですね。

2つ目の、「高齢者向けキャリア教育、生きがいを得ることができる幅広いキャリア教育になるように工夫すること」とありました。これに対する答えなのだと思いますけれども、労働局連携講座として、新規に就労支援講座を実施したと。これだけですね、やったのは。

これ何回やったかわかりますか。責めているのではないのです。知りたいのです。

○田島生涯学習振興課課長補佐 新規就労講座は、この新しい「職業能力を高めよう」は1回の開催になります。

○岡村委員 何人来ましたか。何人募集しましたか。わかりますか。



○上原生涯学習振興課主任主事 年次事業報告書の24ページの②キャリア教育の支援のア、キャリアプランニング講座の就労支援に記載があります。

○岡村委員 20人の募集で13人ということですか。そういうことですかね。

○上原生涯学習振興課主任主事 そうです。

○岡村委員 どう思いますか、そのことについて。この回数と数字。モニタリングされていると思いますけれども。これ公文書残っていますよね。私たちの言ったことは。残っていますね。

○田島生涯学習振興課課長補佐 残っております。

○岡村委員 それをどう思われるかちょっとお聞きして、今後どうしていただけますかというのを知りたいのですけれども。これ対象は高齢者だけですか。

○近藤会長 職安のほうだから、高齢者だけじゃないかもしれない。

○田島生涯学習振興課課長補佐 高齢者に限らず、成人を募集しております。

○岡村委員 そうですか。

○近藤会長 高齢者向けにお願いしたいとこちらとしてはお願いしたことですけれども。これを見たときに、やはり来ていらっしゃる方って、高齢者の方よりは、やはり若い方のほうがかなり多いのですね。

私も昨年、その前の年に仕事をやめた関係で、職安のほうに行って、そちらのほうで高齢者向けのいろんなキャリアということでお願いして、私もパソコンが余り得意ではなかったもので、パソコンの初任のところをお願いして、専門で学校とかありますよね。そこをご紹介してもらって行ったのですよ。

それで、いろいろ最初から、こういった文書をつくったりとか、そういうのを全部教えていただいたのですけれども、この内容だと、生涯学習センターで、公共職業安定所の方が提供したということですが、どんな内容のことをしたのかというのが、一つもこれでわからなかった。だから年齢的なものとか、そういったところのことが全然こちらには伝わってこなかった。

○田島生涯学習振興課課長補佐 内容について、少しお話しします。

新しく新規に開催したというところで特出ししている部分ですが、内容としては、いわゆる職安、労働局の方をお招きして、いわゆる雇用と、需要と供給になりますけれども、要するに求職しているほうと、もともと人材を求めているほうの、いわゆるミスマッチであるとか、どういったものを求めていくかといった内容が多いのですけれども、実際に

は、どういったところに需要があるのですよと、そういう説明とか、全体の雇用の状況のお話と、あと例えばそれに対して、今それこそ会長がおっしゃったような、資格であるとか、労働局においてさまざまなセミナーであるとか、その資格取得に向けた学校であったりとか、講座をやっているとか、そういったものを関連づけて、こういった講座を受けると就職に役立ちますよとか、そういった形のご説明をしたという形になります。

○近藤会長 要するに、こういうことをやれば就職につながりやすいですよという説明をしたというだけなのですね。

○田島生涯学習振興課課長補佐 基本的にはそういう形の説明になっています。

○近藤会長 基本的には、私が受けたみたいなの、そういう方たちのために、教育してくれるとか、そういったようなことの部分を込めて、ここのキャリア教育という意味で、私たちは意見をさせていただいたのですけれども、今の内容だと、それとはちょっと違うのかなというところがある気がします。

○田島生涯学習振興課課長補佐 センターは、直接やっているわけではなくて、労働局がさまざまな、実際に技能研修だとかをやっておりますので、そことつなぐという形になります。

○近藤会長 間をつなぐ。

○田島生涯学習振興課課長補佐 そうですね。

○近藤会長 それに関して、生涯学習センターのほうで、これに似た形で何か、そういう方たちのための講座を開くというようなことは考えていらっしゃらないのですか。

○田島生涯学習振興課課長補佐 今のところ、具体的な技能講習まではイメージはしていないそうです。

○近藤会長 そうなのですか。

○山田生涯学習振興課長 センターは、そのきっかけづくりというのですか。今まで労働局と連携しながら何かをやるというのが、具体的になかったのですけれども、今回、新たに労働局と連携をして、そのキャリア教育、就労支援につなげるきっかけを提供させていただいたというところであります。

○近藤会長 どちらかという、私たち、昨年やったときには、さっきお話しさせていただきましたように、今日宮野委員がいらっしゃらないのですけれども、ご専門の分野であって、それに関してかなり強くお話しさせていただいていたかと思えます。その内容では、やはり高齢者向けの何かキャリア教育というところでのお話だったように受けとめていた

のですよね。

○中原委員 おっしゃるとおりです。ただ、紹介だけでは、これは余り意味がないので。

○近藤会長 その辺はまた、来年度に向けて。

○中原委員 そうですね。そっちに切りかえてもらわないと。紹介だけでは余り意味がない。

○近藤会長 そうですね。お願いします。

○中原委員 我々としては、せっかく生涯学習ですから、就労支援ということではなく、やっぱり労働とはちょっと違った意味で、本当に将来にかけての教育、キャリアとか、労働局とは違ったものを作ってもらいたいなという意味です。

○近藤会長 先ほど言っていたみたいな労働局との兼ね合いとして、いいところであれば、そういった生涯学習センターの中で勤めていただくようなところを紹介していただくとか。

私が受けたのは、そういうパソコンの専門の学校に行ったのですけれども、そういうところだと、最終のときに、企業の面接があったりするのですね。そこで、その企業さんと面接をして、要するに就職につながっていくみたいなものです。21日間はずっとそこに行って勉強するという形なので、結構、詳しいところまで教えていただける形なのです。なので、私も自己流でやっていたのを、こういうことだったのかとか、そういうのがわかったりとかしたのは確かだったので。基本的には、高齢者の方とかでも、自己流でやってらっしゃる方がすごく多くて、募集をするのですけれども、そちらのほうでも書類だとか、そういうのではじかれてしまうのですね。

だから、そういったはじかれてしまった方たちの受け入れ場所みたいな形で、ちょっと教えていただけるような、何か講座とかをやっていただけるのであれば、いいのかなと思うんですけれども。

○中原委員 これについては切りがないですね。なかなか吟味したくなるから。

○近藤会長 そうですね。わかりました。

○岡村委員 ちゃんとやってくれるかということなのですね。今までのところ。みんなそうなのですから。

アンケート調査のところなのですから、データベース化し、傾向を伺える工夫すること。データベースはやりましたかね。

○近藤会長 去年かなり話し合いましたね。

○上原生涯学習振興課主任主事 センターで、データベース化はしているそうです。それを、講座を企画する際などに活用しているとは聞いております。

○岡村委員 ご覧になって、モニタリングされて、どうですか。十分やっていますか。我々の言った指示、生きていますか。モニタリングされているわけですよね。どうですか。ちゃんとやっていますか。

○上原生涯学習振興課主任主事 生かしてきているとは考えています。

○岡村委員 この対応改善の内容のところを読みましたが、「利便性を図るにとどまっているので」方針ですよね、これ。「また、平成29年度は、意識や実態を調査した」で終わっています。ここまでしかやってないのかと思ったのですよ。

だから、やってくれるのだろうかというのを、本当にやってくれる、やってくださいよとお願いしたいのです。

○中原委員 意識や実態を調査したのだから、やったということですね。

○岡村委員 いや、調査だけしたということですね。

○中原委員 これでは調査だけしたということになる。

○岡村委員 傾向をとらえる工夫をすること。傾向はとらえたということですか。生かしてくれるということですかね。一応、やったということになるのですかね。

○中原委員 確かに、岡村先生の言われるように、満足度とか、利便性の向上を図るために、具体的にどういう形となるのかということですよね。

○岡村委員 そんなのやっていますかということ。

○上原生涯学習振興課主任主事 この内容の文書の前半は利用者のアンケートに関する記述で、後半の実態調査というのは、アンケートとは別に無作為に市民を抽出して、センター利用していない人にもアンケートを送付するという調査を実施したという意味合いになっています。その調査結果については、年度が変わってから冊子みたいなものになってでき上がったので、これから活用していくということになっています。

○岡村委員 そうですか。

アンケートを実施した。次に分析もしたと。今後、利便性の向上を図りますと、こういうふうに読めばいいのですね。

○上原生涯学習振興課主任主事 そうですね。

○岡村委員 すみません。もう一つ、いいですかね。

市による評価のところなのですが、今やることじゃないのかなと思うのですが、ここだけ頭から読んでいったので、そう思うのですけれども、施設管理業務で、昨年度を4.6ポイント上回る62.9となった。これいいですよね。

次、成果指標である55%を超え、市民の自主的な学習活動を支援した。要するに、これ大きく伸びたという意味ですよ。そのように読んでいいですよ。だからBですよということですね。

要するに、Bとする評価のポイントは、ここですね。なかなかそれが読めなかったの。

指定管理者による自己評価のところでは4.6。こちらでも、これだけ上回りましたよという書き方はしていないということなのですね。4.6をどう読むかということも、結構な率だと考えていいのじゃないかな。よく見たらね。

○近藤会長 そのほかのご質問は。よろしいですかね。

それでは、今出た内容等を議題2の答申として事務局にまとめていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

○國方総務課長 承知いたしました。

○近藤会長 よろしく願いいたします。

では、続きまして、イの千葉市科学館に関して、事務局から説明をお願いします。

○潮見生涯学習部長 それでは、引き続きお願いします。

まず、1、「公の施設の基本情報」ですが、施設名称は千葉市科学館。条例上の設置目的、ビジョン・ミッション、制度導入により見込まれる効果については、記載のとおりでございます。

成果指標及び数値目標ですが、まず成果指標①「入館者数」は数値目標として40万人を設定しております。

成果指標②「利用者アンケートによる利用者満足度」の数値目標は、利用者アンケートの再来館の意思を尋ねる項目において、「ぜひ来てみたい」と「機会があれば来てみたい」と回答した割合として97%を設定しております。

成果指標③「市内小学校団体利用の割合」の数値目標は、市内の小学校団体が科学館を利用する割合として、利用率100%を設定しております。

次に、2、「指定管理者の基本情報」ですが、指定管理者名は、コングレ・東急コミュニティー共同事業体、指定期間は平成29年4月1日から平成34年3月31日までの5年間となっております。選定方法は公募でございます。管理運営費の財源につきましては、指定管理料及び利用料金収入となっております。

次に、3、「管理運営の成果・実績」ですが、(1)成果指標に係る数値目標の達成状況については、1つ目の成果指標「入館者数」は、魅力的な企画展示の実施や、

人気コンテンツのプラネタリウム番組への導入などにより、平成29年度43万5,113人が来館し、指定管理者が設定した数値目標に対する達成率は102.3%となっております。

2つ目の成果指標「利用者アンケートにおける利用者満足度」は、市設定の数値目標を0.5ポイント上回ったものの、指定管理者設定の数値目標は0.5ポイント下回っており、達成率は99.5%となっております。

3つ目の成果指標「市内小学校団体利用の割合」は、児童数の少ない小学校1校が隔年で利用することとなったため、利用率は99.1%となり、達成率も99.1%となっております。

成果指標ではございませんが、科学館の利用状況を示すその他の指標として、プラネタリウム稼働率がございます。こちらは、プラネタリウムの座席がどの程度埋まったかを示す指標で、平成29年度の実績は33.4%となっております。

次に、4、「収支状況」の(1)必須業務収支状況についてですが、収入は表の一番下の合計の実績欄、4億5,857万8,000円で、計画比で1,191万8,000円の減となっております。主な要因は、当初の計画よりも有料入館者数やミュージアムショップ売上が減になったことによるものです。

続いて、支出は、表の一番下の項目の合計欄、実績欄ですが、4億5,542万5,000円で、計画と比較しますと、1,507万1,000円の減となっております。主な要因は、当初計画していた職員数を採用できず減となっているということです。

自主事業の収支状況についてですが、収入は233万8,000円で、自主事業の参加者が減少していることにより、前年度比70万円の減となっております。また、支出は183万2,000円となっており、事務費の減により前年度比12万1,000円の減となっております。

(3)の必須業務と自主事業を合わせました収支状況ですが、収支は365万9,000円の黒字となっております。

次に、5、「管理運営状況の評価」でございしますが、(1)管理運営による成果・実績(成果指標の目標達成状況)ですが、入館者数の項目につきましては、市設定の数値目標の105%以上を達成しておりますので、Bとしております。その他の項目については、市設定の数値目標の85%以上105%未満であったため、Cとしております。

(2)の市の施設管理経費縮減への寄与についてですが、指定管理料支出が、選定時の

提案額と同額でしたので、市の評価はCとなっております。

次に（3）管理運営の履行状況についてですが、選定時の審査項目を評価項目として、指定管理者と市とがAからEの5段階でそれぞれ評価を行っております。

モニタリング項目の年間の点数の算出ですが、平成29年度モニタリングレポートに記載のモニタリング項目の確認結果に基づきまして、モニタリング項目ごとの点数を算出しております。算出した点数から、平成29年度の指定管理者年度評価シートの評価項目に対応するモニタリング項目1項目当たりの平均値を算出し、この平均値をもってAからEの評価をしております。

モニタリング項目ごとに算出した点数から、先ほどと同じように、ご意見であったり、マイナスであったりというような項目ごとにマル・バツで評価をした結果が点数になって、それぞれの評価項目、大項目ごとに平均点を算出し、その平均点で機械的に評価が出てまいります。

その評価の目安としては、（目安）のインデックスのある評価の目安からきております。

評価Cというのが、昨年標準どおりいっていることですので、それ以上、以下の部分についてご説明をいたします。

まず、2、「施設管理能力」の（1）「人的組織体制の充実について」は、管理運営の執行体制を満たしていなかったこと、また必要な専門職員の配置がなされていなかったことから、市の評価をDとしております。

また、（2）「施設の維持管理業務」につきましては、指定管理引き継ぎ中に休止中だった展示物を修理、再稼働させたほか、展示物の不具合が発生した際に迅速に展示物の修繕を行ったことから、モニタリング項目ごとに算出した点数の平均値にプラスの評価を加え、市の評価をBといたしました。

（3）「施設における事業の実施」につきましては、サマースクールや千葉県科学館トークイベントの開催数が、提案書の開催、目標回数を満たしていなかったものの、企画展示やプラネタリウムにおいて、入館者数の増加に貢献したため、市の評価をプラス・マイナスでCといたしました。

（4）「教育委員会指定管理者選定評価委員会意見を踏まえた対応」といたしまして、「高齢者を対象とした科学講座やイベントを増やすよう努めること」との、平成26年度意見への対応として、大人が楽しむ科学教室の実施回数を増加いたしました。

また、「利用者数、プラネタリウム稼働率について、さらなる増加を目指すこと」との

平成27年度意見への対応として、利用者数は前年度比104.2%を達成しております。プラネタリウム稼働率につきましては、前年度を下回っておりますが、これはプラネタリウムの投影回数を増やしたということで、分母が大きくなった結果、稼働率は落ちましたが、利用者数、投影回数ともに前年度より増加しております。

次に、6、「利用者ニーズ・満足度等の把握」についてですが、まず利用者アンケートでは、629票の回答があり、科学館の全体印象としては、「とても良い」と「まあ良い」の合計が94.2%と高い満足度を示しております。

施設の印象につきましても、「とても良い」と「まあ良い」の合計が92.4%となっております。

また、成果指標にもなっております再来館の意思を尋ねる項目では、「ぜひ来てみたい」と「機会があれば来てみたい」という回答の合計が97.5%を達成しており、市の設定した成果指標の97%を0.5ポイント上回っております。

次に、「市・指定管理者に寄せられた主な意見・苦情と対応」ですが、「千葉市科学館内のプラネタリウムへの案内表示が目立たないので見直してほしい」と意見が寄せられており、案内表示の設置場所の見直しや表示方法の変更などの改善をしております。また、「停止中、調整中の展示物が多い」との意見も寄せられていますが、展示物の不具合が発生した際には、専門のスタッフが迅速な修繕を行っております。

最後の7、「総括」ですが、1つ目の指定管理者による自己評価では、年間利用者数が過去最高を記録したこと、施設外でも地域貢献を果たしたこと、千葉市科学フェスタの成功に貢献したことなどからBとなっております。

市による評価についてですが、年間利用者数が過去最高を記録したこと、企画展の入場者数も過去最高を記録したこと、千葉市科学フェスタで新しい試みに挑戦したこと、プラネタリウムの番組に人気のコンテンツを取り入れたことなどを評価する一方で、必要な専門職員が配置されなかったこと、管理運営の執行体制が整っていなかったこと、一部の講座が目標回数に届かなかったことから、プラス・マイナスでCといたしました。

説明は以上です。

○近藤会長 ありがとうございました。

それでは、先ほどと同様に指定管理倒産、撤退等のリスクを把握する観点から、指定管理者の財務状況について、岡村委員のご意見をお聞きしたいと思います。お願いいたします。



○岡村委員 承知しました。

それでは、第49期計算書。これは、東急コミュニティーのほうですけれども、簡単にご説明させていただきます。

大変大きな会社でございまして、負債の部が419億円、純資産が620億円ということとございまして、60%程度は自己資本です。ここはマンション管理を中心とする会社のようにございまして、大変厚いと思います。純資産の中を見ましても、資本金と資本剰余金、これは株主が拠出したお金でございまして、これが30億円程度であるのに対して、620億円の純資産。要するにたくさん、きちんとやってこられた会社ではないかなと思います。

資産の部を見ましても、例えば流動資産は389億円ございまして、その中、短期貸付金というのが170億円ございまして、その中身、関連会社、親会社かもしれませんが、引当金が800万円しかとってないということで、非常にとる必要ないからとってない。事業のために使っているのかなと思いますので、389億円中170億円は、そういう他社に対する貸し付けでしょうけれども、大丈夫なのではないかな。

固定資産を見ますと、投資その他の資産の関係会社株式が400億円もっておりまして、関係会社長期貸付金11億円というのがございまして、いずれにしても、グループで事業されている会社であるので、こういうことになると思いますけれども、特段問題はないと思います。財政状態ですね。損益計算書でございまして、経常利益が100億円ございまして、若干の特別損失、この期限りの損失が7億円ありまして、税金を引く前で97億円利益がございまして、税金を引いた後で75億円の純資産が増加したという話でございまして、この75億円というのは、先ほど左側で見た純資産620億円の10%以上ですかね。配当もされているのだと思いますけれども、きちんとした数字を残されているなと思います。

あと、個別注記表等、その付記も特段気になることはございませぬので、まず問題ないと思います。

続きまして、コングレでございまして、28期報告書、貸借対照表があります。損益計算書があります。次に純資産の増減を示す株主資本等変動計算書というのがありまして、その次に事業報告がございまして、まず貸借対照表に戻っていただきまして、まず初めに、出された決算書が正しいということを前提にさせていただきます。

監査報告書もついていないので、わからないわけではございまして、貸借対照表も

随分大ざっぱでございまして、同じように右側を見ていくと、負債は47億円です。純資産は、53億円。この数字を見ると、52%ですね。負債資本の合計の52%は純資産で占められているという、まあ厚いと思います。

その純資産の中を見ますと、株主資本53億円でございますけれども、株主がお出しになったのを抛出された金額は、ここで見る限り1億6,000万円ぐらいの金額に対して、利益でためてきたお金が64億円あります。自己株式を12億円を出して買ったと。その結果、53億円、大変な含みがあるから、この自己株式の金額が資本金の資本準備金の金額を大きく上回って、こういうふうになるのだろうと思いますけれども。きちんと純資産が厚いと思います。

資産の部で、流動資産76億円、固定資産24億円とありまして、現金・預金が38億円あります。細かく言うつもりでは来なかったのですが、例えば固定資産を見ても、有形固定資産、無形固定資産、投資その他資産14億円。この中身が一切書いてないので、これ中科目というんですよ、さっぱりわかりません、はっきり言ひまして。流動資産のほう、立替金でございますね。立替金、「等」がついていて、それ6億円ありますけれども、「等」って何だかわかりません。これだけではちょっとわからないです。ただ、合計はそういう数字が出ています。

流動負債を見ると、未払い金等21億円ありますけれども、「等」って何だかわかりません。引当金がない分わかりませんし、必要がないのかもしれないけれども。固定負債もざっくりなんですよ。損益計算書を見ましても、営業収益合計幾らです、費用合計幾らですということございまして、中身が全然ないのですよ。経常利益は12億円という数字が出て、プラスだなと思いますけれども、最終7億円出たという。利益、黒字ですね。経常で12億円出ています。純資産50億円に対して7億円が出たというのがここでわかりますけれども。注記もついてないし、後発があるのかどうかもわからない。ちょっとわかりませんと言っておきますけれども。出されたものだけ見ると大丈夫そうですけれども。ちょっとそれ以上は申し上げられないなど。

以上です。

○近藤会長 ただいまの岡村委員のお話について、ほかの委員の方から何かご質問ございますか。

○中原委員 中身わからないですね。これだけはもう信用するしかないですね。

○岡村委員 そうですね。

○中原委員 数字だけをね。

○岡村委員 大丈夫そうだなと思います。

○近藤会長 これで、こうなのだなと思うしかないということですね。

○岡村委員 そうですね。

○近藤会長 ほかは、何かございますか。

○近藤会長 続きまして、先ほどの事務局からの説明内容の質問や、指定管理、運営サービス水準向上、業務効率化の方策、改善を要する点などについて、ご意見をお聞きたいと思いますが、ここで皆様からのご意見をいただく前に、科学館の評価に関しまして、本日欠席の宮野委員からご意見をいただいておりますので、事務局より報告をお願いします。

○國方総務課長 それでは、宮野委員からのご意見を、私のほうから代読させていただきます。

昨年度、指定管理者が変わり、この1年間は科学館にとりまして大変な業務運営であったかと思います。その中で利用者数を高めた実績は見事であると思われませんが、それが全体の評価につながっていないことが惜しまれます。

総合的な評価を見ると、管理者側の自己評価の高さに対して、市の評価が全て低くなっています。また、補足資料にバツが多い項目として、労働条件確保、人的組織体制が挙げられます。今年度からの一変した運営体制において、人事面での充実が不足しているということかと思われませんが、今後、施設における心的環境における意思疎通を図り、人心を大切に、体制強化に尽力されたいと考えます。

しかし、市民の関心を引き、幅広い層の来場者の増加に向けた努力、ボランティアの活動による市民主体の運営、プラネタリウムの施設環境、事業内容の広がりへの尽力につきましても、これまでの運営体制がより開かれ、高まるものと思われれます。

また、事業報告書全体的に数値の高まりに対する記載が目立ち、モニタリングによる一つ一つの利用者の声の記載が不十分に見えます。今後、モニタリングを詳細に行い、十分に検討し、改善の糸口となるようにし、市の望む内容や大切な観点が、管理者においても同じ目標として、また市民のために高まるようにできるとよいと考えます。

したがって、来期に向けては、モニタリングの徹底と分析による内容のさらなる充実が数値にも反映してくるような運営を期待します。

科学館の方向として、自然、物理といった分野に加えて、管理者の実績・経験に照らして、医科学や教育の世界における分野の内容も、さらに取り扱うことで、高齢者の医学、

福祉の部分にかかわる科学や教育科学についての発展への関心を若年層から持ち、科学社会への夢や実現について考えるための提案ができるのではないかと思います。もちろん、現在の基礎科学的なおもしろさも維持しながらということでもあります。

また、次への期待として、プラネタリウムの投影において、リフレッシュタイムが昼間の利用者確保につながったとしても、その内容に工夫を望みます。「ひる寝たりウム」の時間の科学館におけるミッションの意味を考えると、昼寝時間でよいが、美しさを強調できるような仕組みで迫る、音楽療法の科学を利用した内容にできるとよいのではないかと思います。

あるいは、既にある番組を用いての星空ミニコンサートをしたり、解説番組の映像のみを流して、解説番組を編集して流すなどもよいのではないのでしょうか。

引き続き、注視していきたいと思う運営が見え隠れしている現在の運営状況にあると思われる。

市民の心に響く、科学の世界の詰まった施設としての運営を今後もさらにしてほしいと思います。

以上でございます。

○近藤会長 ただいまの宮野委員のご意見に対して、事務局から何かございますか。

○山口生涯学習振興課統括管理主事 宮野委員よりご意見いただきました。

まず、総合的な評価において、「管理者側の評価の高さに対して、市の評価が低くなっていること。それから、モニタリングの徹底と分析による内容のさらなる充実が数値にも反映してくるような運営を期待する」というご意見をいただいておりますが、それに関しては、市と指定管理者の目標水準等が乖離することがないように、密接な意思疎通を行う中で共通認識を図っていききたいと思います。

また、モニタリングの結果が事業に反映され、充実した内容になるよう管理していきたいと考えます。

また、「高齢者の医学・福祉の分野にかかわる科学、教育分野についての発展や関心を若年層から持ち、科学社会への夢や実現について考えるための提案ができるのではないかとと思う」というご意見をいただきました。それにつきましては、基本的な科学の分野だけでなく、医科学、教育科学にも若年層が関心を抱けるよう、事業内容についての検討を考えていきます。

また、昼間のプラネタリウムについてということで、「音楽療法の科学を利用した内容、

あるいは既にある番組を用いての星空ミニコンサート、解説番組等、映像投影などでもよいのではないかと、ご意見をいただきました。それにつきましては、またプラネタリウムの利用方法を注視しながら、投影番組を今後検討していきたいと考えているところです。

以上でございます。

○近藤会長 それでは、委員の皆さん、科学館の評価に関して、何かご質問、ご意見はございますか。

○中原委員 いいですか。

○近藤会長 どうぞ。

○中原委員 宮野委員がご指摘いただいたところですが、特に先ほど議題の1の生涯学習センターと比較しますので、一層その感が強くなります。

自己分析評価が、こちらのほうが甘いのか、あるいは、生涯学習センターのほうが厳しかったのかわかりませんが、やはりこの科学館の自己評価というのは、民間なのか分かりませんが、AあるいはB評価が多いかなと。だから、生涯学習センターのほうでは、これは1ランクぐらい低い評価かなというところですね。それと同じく、総括のところですが、自己評価はBで、市の評価はCという部分です。確かに、生涯学習センターに比べて、これも甘いかなと。やはり先ほど第1議題やりましたから、それを見ると、どうかなというのがあります。

そして、市の評価がCということになっています。その内容のところを見ると、管理運営の執行は肯定的なことが書いてあります。

だから、先ほどの生涯学習センターだけを見ると、結局Bになっていましたから。向こうはBで、こっちはC。その辺も、生涯学習センターと比較すると、その辺のところはどうなのかなと。厳しく言えばですね。宮野先生も指摘されたように、ここの大きな乖離が、やはり目立つということです。

あと、これは意見ですが、宮野先生もそういうことをおっしゃったのですが、科学館のある「きぼーる」あたりに行くと、本当に子供が多いですね。この暑い中を小さい子供たちが訪れているのですよね。だから、これはやっぱり、利用価値があるなということです。では、平日の夏休みではないときだと、これは逆で、閑古鳥が鳴いているのではないかと思います。これは難しいですが、やはり年中通して、ある程度平準化してはどうですか。平日に子供が来るのはなかなか難しいので、だから時間のある高齢者を集めるとか、何か平準化するような、何かバランスというのを考えるようなプログラムが必要かなと。

宮野先生は、何か詳しいことをいろいろ提案されていますが、私もその辺の何か工夫する必要があるのではないかなと思います。

○近藤会長　ございますか。

○中野委員　ここは平成29年度から指定管理者としてということですがけれども、自己評価が市と大分乖離があるとか、人的組織体制がまだ十分整っていないみたいなところというのは、1年目だからという要素があるというところが、あるのかどうかを確認したい。今後は、それが改善されていくのかどうか、一つ一つ確認させてもらいたいです。

○近藤会長　お願いします。

○潮見生涯学習部長　おっしゃるとおり、1年目で雇用しようと思った予定の人を雇用できなかったということで、決算上も人件費が減っていますし、結果として、提案どおりの人員配置ができなかったということで、市の評価としては、そこはマイナスになっている。

○木崎生涯学習振興課主任主事　今現在53名おまして、30年度の体制は56名ですので、あと3名が。今年度中には達成できるかなと思っております。

○中原委員　これはもう最低限のお約束ですから。これはもう守らせないと、これは逆に今度、ペナルティーですよ。

○近藤会長　特に、雇用ができなかったというところに関しては、何かこちらの委員会のほうから、こっちに関して何かお話されたことってあったのですか。

○山田生涯学習振興課長　こちら教育委員会からも、企業に対しては、提案どおりの職員体制を確保するように、当然話はしました。

指定管理者側も努力はされてはいるようですが、まだ達成はされていないですけども、引き続き指導していきたいなと思っています。

○中原委員　いいですか。先ほど、中野委員もおっしゃられたように、本当の労働法に引っかかるのだったら、これはアウトでしょう。我々は公的機関ですから、そういうところをやっぱりきちんとやっていただかないと、市のほうが信用をなくすので、これはやっぱりちょっと許せないなと。お願いどころか、そこは強く、あるいは指導ではなくて、もう守らないと、次から指定管理を外すよというぐらいの強い指導が必要かなと思います。

○近藤会長　ほかは大丈夫でしたか。

○中野委員　そうしたら、先ほどの説明を聞いていて、企画展いろいろ魅力的な企画があって、それがいい結果につながっているというところもあったというような説明があったのですけれども、この企画展、これ実績を見ると、4月、5月、7月、8月、9月

というので、年の半分ぐらいですかね。その企画展みたいなのをされているのが。

だから、せっかくそういう魅力的な企画ができるのであれば、当然夏休みだからとか、春休みだからという事情で、ここに集中しているという事情があるのでしょうかけれども、少し計画的に、いろんな企画ができれば、よりいいのかなと思いました。

意見です。

○山口生涯学習振興課統括管理主事 今、3、4、5月、それから7、8、9月のところを企画展料金ということで入っていますけれども、本来は冬にも企画展の期間として、通常の年であれば企画をしていくものなのですが、昨年には当たりましたは、たまたま修理が入るかも、屋上の工事が入るかもしれないということで。

○近藤会長 施設のほうにですか。

○山口生涯学習振興課統括管理主事 そうです。建物自体の。それによりまして、その企画展ではなくて、屋上の共用部分で団体が、食事をするような部分を、本来企画展をするスペースに緊急で持ってきました関係で、パネル展ということでとどまった部分もあります。料金もとらずにということで。本来は、冬の部分といったことであります。

○中野委員 仕方なかったということですね。

○山口生涯学習振興課統括管理主事 そうですね。

○近藤会長 要するに屋上の工事に入るかもしれないというのは、急に決まった話なのですか。

○山口生涯学習振興課統括管理主事 それは、その前から。

○木崎生涯学習振興課主任主事 前年ごろから工事に入るという話がありました。それに備えて、どういった形で展示をしていくかというのを議論していたのですが、いわゆる大々的には難しいということで、パネルで展示をするという形でおさまった経緯があります。

○近藤会長 何かございますか。

○岡村委員 いいですか。

○近藤会長 お願いします。

○岡村委員 また、ちょっと教えてほしいのですが、提案書出てきまして、その提案書の中身を私たちチェックして、お話もして、これに決まったわけですね。その提案書にいろんなことやるって書かれていましたけれども、それをやったかどうかというのは、モニタリング、もちろんされていますよね。

○木崎生涯学習振興課主任主事 はい。

○岡村委員 わかりました。では、監査やるとかと書いてあるけれども、それちゃんとやっていました。やっていますよね。全部見たのですよね。

○木崎生涯学習振興課主任主事 提案に上がっている事業の内容については、一つ一つ実施したかどうかは確認しています。

○岡村委員 確認した。どんな状況でした。

○木崎生涯学習振興課主任主事 もちろん達成している部分もあるのですけれども、残念ながら夏に開催しているサマースクールですとか、達成ができなかった部分。

○岡村委員 達成しなかったというのは、回数とかですか。

○木崎生涯学習振興課主任主事 実施はしているのですが、回数が満たなかった。目標に満たなかったという部分は幾つかございました。

○岡村委員 その理由はなんですか？

○木崎生涯学習振興課主任主事 やはりその時期に、人がそろっていなかったというのが。

○岡村委員 こちらの管理者のですか。

○木崎生涯学習振興課主任主事 科学館で、指定管理者の人数がそのときいなくて、難しい部分があったと、話を聞いております。

○岡村委員 そのことは、さっきの人の問題に尽きますよということで。JAXAとかいろんなこと書いていましたが、あれはやられましたか、的川さん。

○近藤会長 前に。

○岡村委員 来的时候。あれが売りだったのですけれども。的川さん来られましたか。

○木崎生涯学習振興課主任主事 10月22日に的川さんをお招きして講演会をいたしました。

○岡村委員 あと、東大とか、千葉工大と一緒にやるとか。管理者は、いろんなこと。ちゃんとやってくれたのですね。そう思っているのですね。はい。それを知りたかったのです。よろしいですか。

では、ちょっと幾つかまた教えてほしいのですけれども。評価シートの支出、人件費ですね。先ほどのあれで、人が集まらなかったということ。これ何人ですかね。実績と計画の1,900万円って。

○山口生涯学習振興課統括管理主事 53人の予定が49人。

○岡村委員 今後、採用すれば4人分、1,900万円プラスになるのですね、費用が。

○山口生涯学習振興課統括管理主事 そのはずです。



○岡村委員 そうですね。それでいって、費用が減った。本当は、その分、残りの増えるはずだったのですけれども、収入も増えなかったということですかね。上のほうで。利用料金が、有料入館者数が減ったので、540万。

○岡村委員 その下で、ミュージアムショップ売り上げの減。これは入館者が何かの減少ですかね。この理由と、今後どうなるのだということ。どういうふうを考えてらっしゃるか、それをお聞きしたいのですけれども。2,000万コスト増えるわけですね、これから。

○近藤会長 そうですよ。

○岡村委員 そうですよ。これ何で減ったとお聞きになりましたか。収入が減ったら、単価幾らの人たちが何人だとか何か。細かいやつあるのですけれども。特にやっていますかね。絵に描いた餅だったのではないと言えるかということ。

これは、単年度の計画ですものね。

○潮見生涯学習部長 前年よりは上回っているのですけれども、計画がちょっと過大だった。

○岡村委員 計画いくかどうかというのが最大のポイントだったので、その選定委員会のときに「いけますよね」と確認しましたよ。何て言いましたっけ。「必須だ」とか言っていましたよね。

○中原委員 それは言われた。もう私、やる気あったから、こっちに頼んだということ。

○近藤会長 そうです。

○中原委員 やるのかという感じで。

○岡村委員 だから、ちゃんと理由があって、モニタリングしていただかないとだめですけれども。今後どうするのだということですね。きちんと見ていただかないと。

○近藤会長 本当に。

○岡村委員 何かつかんでいらっしゃいますか。なぜ、何月にだめだったとか、あるんじゃないですか。

○岡村委員 彼らはやっているのですかね、そういう分析は、自分たちで。計画出したらやりますよね。いかなかったらね、毎月、今月、これだけいかなかったって、ちゃんと理由を説明しに来たかということなのです。

○山口生涯学習振興課統括管理主事 入館者数自体は増えているということで、毎月その報告は聞いておりました。実際に収入としてということについては。

○木崎生涯学習振興課主任主事 そうですね。成果指標となっているのが、全体の入館者数ということになりまして、入館者数自体は達成しているのですけれども、当初の計画

から比べると、有料の入館者数自体も少し減ってしまったというところでは。

○岡村委員 いやその、なぜですかね。

○近藤会長 そうですね。そのところ。

○岡村委員 今後、直るのですかね。この数字自体については、ぜひご検討願いたいのですけれども。

○山田生涯学習振興課長 提案書が、指定管理者が自分で提案したのですから、それをもとに選定もしていますし。実際に利用者数の数は伸びてはいますけれども、さっきの職員体制もそうですけれども、提案書を達成できるように、今後もモニタリングしながら指導していきたいなど。

○岡村委員 ですので、提案書をいけませんと。いろいろな事情ございますからね、計画ですので。であれば、計画を変えてほしいですね、正直言って。どうなるか見えないですから。しかも、適時ですよ。8月にたくさん入るのに、これだけしか入らなかったら、では、どうするのだというのを、本当はモニタリングしていただきたいと思います。大変よくやってくれているのはわかっていますが、数といいますか、うれしいですけれども、見えないのです。

それからもう一つ、先ほどの人の問題でとれませんでしたというところについても、公的機関だということをごさいますて、やっぱり守っていただきたいという、困るわけですよ。よもや事故とかないと思いますけれども、そういうところにつながったとき、これをDにしてくれたから、まだいいのですけれども。Cですよ、ちゃんと合っていますよとやられた日には、やっぱり意識、ちょっと弱いのですかという、そちらもみんなやってくれるけれども、という気はすごくしますので、要注意で、ぜひ早く達成するようにしていただきたいと感じております。

○中原委員 ちょっとよろしいですか。岡村先生の代弁をしますけれども、ちょっと言葉が強かったらごめんなさいねということなのですけれども、これ、コングレは自分でミュージアムを建ててやるのだったら、それは自己責任ですから、何の収入を得て、赤字だろうと、プラスだろうと、それは自分の勝手にしょうけれども、一応公的なこういう施設を使って、それを管理するためにこういう指定管理で、一応計画値より目標を上げているわけですから。いや、自分がもちろんやるわけですが、これはやっぱり市の施設ですから、やっぱり約束を違えられると。自己責任でやるのと、これちょっと違いますよね。

だから、減りましたよと。だけど、収入も減っているけれども、支出も減って、要は帳尻合わせればいいと。これではちょっと困りますよね。あとはもうわかると思いますけれども。

ただ、今、岡村先生が言われるように、減ったのだったら、それなりに説明責任ですよ。それに対する今後の対策というのを、きちんとやってもらわないと、この市の指定管理選定委員会としての存在意義が問われるかなということだと思います。私は、岡村先生の代弁になるのかどうか知りませんが。その辺のところを、もう少しコングレは、自覚してもらわないといけないという気がしますよね。

1年目だから、ちょっと要領がわからなかったというのは、まだ言いわけになりますけれども。これで多分やめるわけではないでしょうから、やっぱり次年度から、その辺は厳しく指導してもらいたいですよね。

○岡村委員 そうですね。早目早目に。

○山田生涯学習振興課長 人が足らなかったというところも、こちらは何回かヒアリングをして、雇用するよとということ指導もしましたし、講座の回数がちょっと足りないというところもヒアリングをしまして、講座を達成するよとということ指導しました。

今後も、モニタリングしながら、提案書どおりとか、目標どおりするように指導したりしていきたいと思っております。

評価のほうも、コングレ、東急コミュニティー自己評価Bでしたけれども、市のほうはCということで、プラスの要因はあったのですが、そういった体制不十分だった点等も踏まえて、プラマイゼロで一応Cにはしてあります。今後も指導はしていきたいと思っております。

○岡村委員 感覚が違うのですかね。守るべきところとか。でしょうね。

○近藤会長 でも、ほかのところでも、実績があるというのがあって……

○岡村委員 そうですね。

○近藤会長 私たちもそれを参考にして、ではここでということになったと思うのですが。

○岡村委員 本当にできるか。あのときかなり念押ししましたものね。

○近藤会長 そうです。

○岡村委員 モニタリングレポートがございますね。ヒアリング1日じゃないのですよね。何回も聞いているのですよね。今の話で。

○潮見生涯学習部長 実際には、毎月行っております。

○岡村委員 やっていますよね。

○潮見生涯学習部長 来てもらって、話は聞く。

○岡村委員 これなんか、1回しか聞いてないように見えるので。

現物確認というのはきちんとやられたということで、エ、労働条件確保。これはチェックリストに確認をしていなかったということですか。チェックリストはあったのですか。

○木崎生涯学習振興課主任主事 事前にチェックリストは渡しまして

その上で、チェックをしてもらっております。

○岡村委員 あちらに渡してチェックしてもらった。

○木崎生涯学習振興課主任主事 チェックしてもらいました。

その中で、1点、条件を満たしていない箇所がありまして。衛生管理者を選任して届け出をするとなっているのですけれども、それを選任及び届け出がされていなかったということがありまして、こちらの項目はバツをつけております。

○岡村委員 衛生管理者、何とか雇おうと思ったけれども、できなかったということなのですか、理由は。

○木崎生涯学習振興課主任主事 こちらに関しては、そもそも認識が異なっていたという話がありまして、通常の施設ですと、50人以上の施設については、衛生管理者を選任、届け出しないといけないのですけれども、そのときの職員数は50人未満だったということで、話がありました。ただ、50人以上というのは非常勤の人数も含めて50人以上ということもありまして、そこで市との認識のずれがありまして、モニタリングを実施した際に、それは選任、届け出が必要ですよということでご案内をさせていただいて、現在は2名を衛生管理者に選任して、労働基準監督署にも届け出を出されているということになります。

○岡村委員 理解がちょっと違ったという事ですね、あちらは悪気がなかったわけですね。そうですね。無視したということじゃないですね。

あと、特別講座運営事業とございますよね。これバツになっているのですけれども、これは何でしたっけ、理由は。

○木崎生涯学習振興課主任主事 こちらは提案書の中で、特別講座運営事業ということで、高度な内容と身近な内容をテーマとした講座の実施をそれぞれするという事になっているのですけれども、身近な内容をテーマとした講座については実施がされており、高度な内容をテーマとした講座が、本来の目標ですと6回実施されるはずだったのですが、

平成29年度中に1回しか実施がされていなかったということで、こちらバツになっております。

○岡村委員 何か言っていましたか、やらない理由。

○木崎生涯学習振興課主任主事 こちらについても、年度中に指導はしてきたのですけれども、ちょっとやはり人が整っていないということもあって、なかなか難しかったとは聞いております。

ただ、今年度に関しては、必ず計画するよということ、一応6回分計画しております、実施される見込みです。

○岡村委員 人の問題だったということですね。

○木崎生涯学習振興課主任主事 そうです。

○岡村委員 ですから、何と言いますかね、提案にはこう書いたのだけれども、もっといい提案ができたとか、こっち要らなくなったと言ってくれば、それであれば計画を変えればいいなと思ったのですけれども。人につきるといことなのですね。

○中原委員 だから、先ほど岡村委員がおっしゃられたように、もちろん、計画どおりするのがある程度ベターなのでしょうが、やっぱり状況によってできない部分もあります。だから、そのときはそのときで、弾力的に計画変更、あるいは、あらかじめ年度当初、計画をこういう形でやりますよと変更する。そして、当然のことながらヒアリングも、毎月モニタリングするということであれば、計画どおりいっているかどうかということも当然わかりますから、計画通り出来ていなかったら、そのとき注意し、確認をしていただきたいなという感じです。岡村先生、そういうことでしょうか。

○岡村委員 プラン・ドゥ・シーという。

○中原委員 そうですね。

○岡村委員 余りに自己の評価と市の評価に差があるので、どうして違うのかなという、あるいは営業的なのかなということだったのですけれども。評価シート

先ほどご説明あったのですけれども、大人が楽しむ科学教室の話で、これ人数は増えたのですね。618人。そういうことですね。回数増やして。

○近藤会長 そうですね。

○岡村委員 これ、よくなったということかな。対象は大人なのですか。私が見たのは高校生以上になっているのですけれども、大人ですか。大人が本当に増えたのかということなのでもすけれども。高齢者を増やすということでもすものね。高齢者を対象とした

イベントを増やしてくださいと、私たち言ったのですけれども。

○潮見生涯学習部長 内容は、事業報告書に記載のとおりでございます。

子供向けでないというぐらいで。なかなか高齢者のみというのではなくて。

○岡村委員 高齢者は増えたのですか。

○木崎生涯学習振興課主任主事 高齢者の来館者数自体は、28年度に比べて増加しております。

○岡村委員 どれぐらい。

○木崎生涯学習振興課主任主事 人数は、65歳以上の高齢者になりますけれども、平成28年度が7,266人であったのが、平成29年度は7,713人に増加しております。

○岡村委員 それもあるみたいですね。それで、その高齢者対象としたイベントが功を奏したと考えていいわけですね。こっちとしては。

○木崎生涯学習振興課主任主事 そうですね。

○潮見生涯学習部長 実際に、大人向けとって、どんな施設でもそうですけれども、子供向けでないものは、大体高齢者が多いですね。

○近藤会長 基本的には、平日だったりすると、通常の方はお勤めしていますから、やはり高齢者の方とかが行くことが多いのではないかなという気はするのですが。

○岡村委員 来館者が増えるということは、高齢者が結構来ているということですよ。

○近藤会長 そうですね。あとは平日以外のものだったら、大人もよく行くのかなと思うのですけれども。

○岡村委員 以上です。

○近藤会長 そうですね。大人のためのクラシックコンサートなんかも。観覧料金とか、人数しか載ってないので、何歳からかわかりませんが、そのほかは高校生が幾らとか、小中学生が幾らとあって内容が出ているので、何とかそういう目安はつきますけれども。

○岡村委員 なるほど。わかりました。

○近藤会長 とりあえず、高齢者が増えたことはいいことで。

○岡村委員 もっと、でもイベントベースでこっちはね。

○近藤会長 そうですね。何か最初の提案だと、イベントをもっといっぱいやるみたいなお話があったので。

そのほか、何かございますか。大丈夫でしょうか。

では、ただいま、各委員さんからありました意見などは、先ほどと同様に答申案として事務局にまとめていただきたいと思います。

私からの提案ですが、今回の審議に基づく答申について、事務局がまとめた答申案を、今回の会議の議事録案とあわせてお送りし、委員の皆様から個別にご意見をお聞きした上で、私が承認して本委員会の答申として決定するというにしていかがでしょうか。

〔「結構です」と呼ぶ者あり〕

○近藤会長 それでは、事務局がまとめた答申案について、委員の皆様から個別にご意見をお聞きした上で、私が承認して、本委員会の答申として決定することといたします。

それでは、次のその他ですが、何かございますでしょうか。

大丈夫でしょうか。

そうしますと、皆様方のご協力によりまして、本日の議事は全て終了いたしました。

ありがとうございました。

それでは、事務局にお返しいたします。

○高桑総務課主査 長時間にわたる審議、ありがとうございました。

以上をもちまして、平成30年度第1回千葉市教育委員会指定管理者選定評価委員会を閉会いたします。

委員の皆様、本日はお忙しい中ありがとうございました。